キジバト　についてネットじゃなく

「あえて図書館で」　調べてみた

本学構内でキジバトが子育てしていた！／彼らはどんな鳥なのか

２羽がデフォルト！

子育て風景@大学構内

（写真提供：日本獣医生命科学大学付属ワイルドライフ・ミュージアム）

スズメやヒヨドリ同様、林縁種。なので森林環境の悪化などの影響を受けにくい（『保全鳥類学』）。

食道の一部に「**嗉嚢**（そのう）」という「食物一時保管器」があり、子育て中はその部分を発達させ、剥離した分泌物**「ピジョンミルク」**（高タンパク高脂肪、ビタミン・ミネラル含有）をヒナに与える高スペックな子育てをする。カテージチーズ状に見えるため「鳩乳」と呼ばれるわけが実は乳成分はナシ。オスも分泌し与えることができ、子育て中にママは次の抱卵に入り、パパがせっせと育児に励む家庭もある（『ハトと日本人』）。

主食は植物の実などだがベビーフードは自家調達であるため、季節を選ばず繁殖できる。巣作りは割とアバウトで、離婚（つがいの解消）もままある。ヘビやカラスの捕食にあいやすいが、せっせと繁殖するめげない本能がすごい。卵は小さめで、１度に２個しか産まない（『見る聞くわかる野鳥界』）。ヒナは握りこぶしよりは大きめで、産毛はイエロー。クチバシは黒く、ピンクならドバトである（『野鳥をたすけるはじめの一歩』）。

「滑翔（グライディング）」と呼ばれるディスプレイ飛翔をする。捕食から逃げるためにも瞬発力は重要であり、その胸骨は発達し、高度な飛翔技術を支えている（『鳥の骨格標本図鑑』）。